

令和5年度 障がい者通所施設かがやき 事業報告

1. 令和5年度 事業実績

登録利用者数	28名
年間延べ利用者数	5419人
1日平均利用者数	21.7人
開所日数	250日

※性別内訳

男性	女性
15名	13名

※出身地内訳

甲賀市	湖南市
21名	7名

※支援区分内訳

区分1・2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
				28	28

※年齢別内訳

18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	計
1	16	10	1		28

*平均年齢 27.4歳

※医療的ケア対応の状況（利用時間内での対応）

医療的ケアの内容	対象者数（人）
人工呼吸器の管理	4
気管切開の管理	3
酸素療法	4
吸引（口鼻腔・気管内吸引）	14
ネブライザーの管理	2
経管栄養	9
導尿	3
浣腸	4
痙攣時の 坐剤挿入	10

令和5年度事業の総括

■（１）看護師体制と医療的ケアへの対応

*本年度は、常勤看護師2名・臨時看護師2名の計4名により医療的なケアが必要な利用者への支援に対応した。医療的ケアを必要とする利用者は増加しており直近3年間においても5名の医療的ケア者の受入れを行っている。人工呼吸器管理や気管切開の管理、頻度の高い吸引など、生命に直結する医療の必要な方も多数おられる中、看護師による適切なケアとそして注意深い観察により、医療的なケアを受けながらも、かがやきで安心して過ごしていただくことができた。

■（２）安心・安全なサービスの提供

*コロナ対応：5類移行後の今年度も新型コロナウイルス感染症への対策を継続して実施した。当施設利用者は病弱な方も多く、特に人工呼吸器装着など呼吸器系にハンディを持つ方においては重篤化も懸念されることから、家族への情報提供は迅速に行うよう心掛けた。本年度夏季を中心に6名の方が新型コロナに感染され、内2名が入院加療されたが、重症化されることなく退院後は元気に通所を再開されている。今年度は感染者拡大による閉所は実施することなく運営することができた。

*利用者状況：利用登録者数は、特別支援学校を卒業された1名を新たに受入れ、登録者28名となった。次年度の受入れ予定者は無いが、翌令和7年度には医療的ケア者も含め2名の受入れを予定している。開所日数は250日（前年度245日）で、延べ利用者数は5419名（前年度4843名）、1日平均利用者数は21.7名（前年度19.7名）であった。いずれも昨年度の実績比較で増となった。

*送迎の実施：車両11台による送迎体制を組み、毎日の朝夕の送迎を実施した（送迎対象者25名）。送迎に係る事故が2件発生している。

*福祉機器の活用：抱え上げないノーリフト介護を基本とし、福祉機器を全ての職員が安全に使用できるよう全職員を対象にリフターおよびスライディングボードの使用について研修を実施した

*利用者の健康管理：今年度も引き続き、国立病院機構紫香楽病院の医師に月1回来所していただき、利用者の心身の状況や障害特性およびアプローチにかかる専門的な手法等についての指示・助言を受けた。医療ケアの必要な利用者が年々増えている中、とりわけ入院を経て大きな状態変化を呈した利用者においては、退院時カンファレンス等に参加し、かがやきでのケアについて主治医より指示を得た。

■（３）療育活動の積極的な展開

*療育活動への取り組み：本年度も様々な活動プログラムを準備し、多彩な療育活動に取り組んだ。活動運営の形態自体はコロナ禍以前の状態に戻し実施、ただし必要以上に密になることを避ける、定期的に換気を行うなど、一定の対策は継続しつつ実施した。

*リハビリテーションへの取り組み：本年度作業療法士1名を配置し、利用者全員についてのリハに係るアセスメントの実施、それに基づく個別の施療に取り組んだ。施療に当たっては嘱託理学療法士と連携し従来のリハ内容を踏襲しつつ新たな取り組み内容も加味して試みた。同様に言語聴覚士により、嚥下器官機能評価、口唇部等のマッサージ、構音検査等を実施、嚥下機能および発語機能の維持改善に向けて取り組んだ。また音楽療法士の来所による毎月2回の音楽療法（ミュージックケア）を継続、実施した。

*快適な入浴の提供：希望される利用者への入浴を週2回を上限に実施した。23名の利用者が希望され特殊浴槽による入浴提供を行った。

*外出活動の再開：コロナ禍で控えていた外出活動を再開した。プチ外出と称する半日外出と1日外出を組み合わせ、年間計40回延べ108人の外出機会を確保した。外出は社会との接点のひとつでもあり、また利用者における社会参加活動としてその意義は大きい。

*年間行事：季節感を感じられ、利用者が楽しめる行事を計画、実施した。今年度は夏祭り行事を2部構成とし、夕刻17:30より第2部を実施、外部より和太鼓の演奏に来ていただき、併せて夏祭りらしく屋台の出店、花火大会を実施した。保護者への参加も案内し初めての夜の過ごしを楽しんでいただいた。

■（４）会議および研修の計画的な実施

*職員会議を定期に実施し、職員相互の研鑽、新たな取り組みへの立案、課題解決への協議などについて職員相互の意見を交わす機会とした。日々のミーティングを充実させるため、職員朝礼（10:00）とミーティング（17:00）を毎日実施した。

*施設内研修：今年度は、全員参加の集合型研修を2回、研修動画の視聴や複数日に分散して行う小規模研修を6回開催した。ほぼ毎月何らかの研修を行うことで職員のスキルアップや新たな知識を得る機会として、仕事へのモチベーションアップにも繋がったと考える。施設内での研修と併せ、外部で開催された研修やオンライン研修にも積極的に参加、9回延べ13名が外部研修を受講した。

■（５）地域交流、地域支援活動

*学生実習の受入れ：甲賀看護専門学校より10日間、延べ27名の学生を受け入れた。

*小中学校への福祉教育活動：土山中学生職場体験学習の受入れ（3名3日間）を実施、また職場体験終了後に夏休み期間中の体験会（かがやき夏の体験会）を案内し、2名の生徒が4日間に渡りかがやきでボランティア活動に取り組んだ。

*就業体験実習の受け入れ：三雲養護学校の高等部2年生（1名）の受け入れを行ない、卒業後の進路先として検討する機会としていただいた。

■（６）事故防止対策の充実

*今年度はヒヤリハットが14件、事故報告が9件であった。都度に職員ミーティングで確認し、個々の要因分析を行い、再発防止に努めた。事故内容については、送迎中の車両事故2件、活動中の事故3件（活動時の用具の異食、歩行訓練時の膝折れによるけが）、食事介助時の事故1件（喉詰り）、排泄介助の転落事故1件、医療機器の操作誤り1件（呼吸器の電源入れ忘れ）、原因不明の事故1件（内出血の発生）であった。

■（７）苦情の受付

*本年度、2件の苦情を受け付けた。1件は介助時の観察不足に起因するもの（破損した紙おむつを着用していた）、1件は家族との関係性構築の未熟に起因するもの（家族の思いを汲み取ることが不十分であったことから職員への不信感を抱かれた）であった。

2. 令和5年度 事業の報告

(1) 看護師体制と医療的ケアへの対応

- ・本年度は、常勤看護師2名・臨時看護師2名の計4名により医療的なケアが必要な利用者への支援に対応した。医療的ケアを必要とする利用者は増加しており直近3年間においても5名の医療的ケア者の受入れを行っている。
- ・とりわけ人工呼吸器管理や気管切開の管理、頻度の高い吸引など、生命に直結する医療の必要な方も多数おられる中、看護師による適切なケアとそして注意深い観察により、医療的なケアを受けながらも、かがやきで安心して過ごしていただくことができた。
- ・一方で重度重症化していかれる利用者もおられる中で、送迎中の安全確保も含めて過ごしの安全安心を確保していくための医療的ケア対応体制の確保、また看護師の精神的な負担感の高まりもある中で、受入れ可能な状態像の明確化などの判断が迫られることも予測される。

※別紙 看護業務 事業報告

(2) 安心・安全なサービスの提供

①新型コロナウイルス感染症への対応措置の継続

- ・5類移行後の今年度も新型コロナウイルス感染症への対策を継続して実施した。当施設利用者は病弱な方も多く、特に人工呼吸器装着など呼吸器系にハンディを持つ方においては重篤化も懸念されることから、ご家族も感染については慎重になられていることもあり、都度の情報提供は迅速に行うよう心掛けた。
- ・本年度夏季を中心に6名の方が新型コロナに感染され、内2名の方が掛りつけ病院にて入院加療された。共に重症化されることなく退院後は元気に通所を再開されている。今年度は感染者拡大による閉所は実施することなく運営することができた。

②重症心身障がい者に特化した生活介護の実施

- ・重症心身障がい者に特化した通所型施設として、その支援の基本目標を「心地よい居場所の提供」、「健やかな生活への見守り」、「その人らしさの発揮」、「他者とのつながり」とし、ご本人の成長や発達の見点を軸に取り組んできた。
- ・生活介護事業の実施に際しては、サービス管理責任者を中心に、個別支援計画及びリハビリテーション計画を策定し、それに基づき支援を展開した。

③利用の状況

- ・利用登録者数は、特別支援学校高等部を卒業された1名が新たに利用開始され28名となった。次年度の受入れは無いが、翌令和7年度には医療的ケア者も含め2名の受入れを予定している。
- ・開所日数は250日（前年度245日）で、延べ利用者数は5419名（前年度4843名）、1日平均利用者数は21.7名（前年度19.7名）であっ

た。いずれも昨年度の実績比較で増となった。これは新たに利用開始された方が基本週5日利用されたこと、入院などで長期に休まれる方がおられなかったこと等による。しかしながら家族都合により利用回数の少ない状態の利用者が数名おられるが、ご家族からの不規則な利用希望があれば送迎も含めて対応した。

④送迎の実施

- ・送迎については今年度も車両11台による送迎体制を組み、毎日の朝夕の送迎を実施した（送迎対象者25名、家族送迎2名）。一方で、家族からの送迎時間や送迎場所への要望が徐々に増えてきており、他の利用者との兼ね合いからすべてに対応することは困難な状況にあることについて理解を求めていく必要がある。
- ・今年度、送迎に係る事故が2件発生した。1件は利用者宅にてご家族の車両に公用車のドアが接触し軽微ではあったが傷を付けるという事故が発生した。1件は送迎から戻る途中での職員による駐車車両への追突事故が発生した。幸い運転職員に大きなけが等はなかったが、運転への集中や運転に際しての体調管理について注意を喚起した。

⑤家族との連絡連携

- ・日々の活動や体調の様子については、毎日の連絡ノートへの記載や送迎時にご家族へ直接報告を行うとともに、10月・11月に個別に保護者懇談会をし、個別支援計画及びリハビリテーション計画の評価内容を確認していただき保護者の方からのご意見や要望をお聞きする機会とした。保護者懇談会の全体会は今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策により中止とした。

⑥福祉機器の活用

- ・抱え上げないノーリフト介護を基本とし、天井走行リフト等の福祉機器を確実に使用することで、職員の腰痛の軽減と利用者の危険や苦痛の軽減につながった。すべての職員が安全に使用できるよう全職員を対象にリフターおよびスライディングボードの使用方法について研修を実施し、基本的な操作の再確認を行い使用方法の統一を図った。

⑦利用者の健康管理

- ・日々の利用者の健康管理と異常の早期発見に努めた。毎日のバイタル測定や月1回の体重測定を行い結果を保護者へ伝えることで、家庭での体調管理にも活かしてもらうことができた。
- ・医療的ケアに係る事項について、それぞれの利用者の主治医より指示書をもろうことで、てんかん発作時の適切な対応方法など、医療的ケアの必要な利用者に対し指示書に基づき適切なケアを提供することができた。
- ・今年度も引き続き、国立病院機構紫香楽病院の医師に月1回来所していただき、利用者の心身の状況や障害特性およびアプローチにかかる専門的な手法等についての指示・助言を受け、より専門的な支援ができるよう学ぶ機会とし

た。また、家族からの相談や利用者の状態を直接診てもらい助言をいただいた。

- ・年齢を重ねるにつれて、体調やてんかん発作にも変化が出てきている利用者もおられ、発作時の観察項目などを一覧表にして記入し、通院時に主治医にわかりやすく伝わる工夫を実践した。
- ・医療ケアの必要な利用者が年々増えている中で、とりわけ大きな状態変化を呈している利用者においては、主治医との懇談（カンファレンス）の中でバイタル値（血圧、SP02、など）の変化とその対処方法などを確認する機会を持った。また気管切開・喉頭分離をされた利用者においては、退院時カンファレンスに参加し退院後のケアについて主治医より指示を得た。

（3）療育活動の積極的な展開

①療育活動への取り組み

- ・本年度も様々な活動プログラムを準備し、多彩な療育活動に取り組んだ。また、ユニット制により少人数での活動も可能になり、利用者それぞれに適した活動を実施することができた。活動の「ねらい」「目的」を全職員で周知し、観察、評価につなげた。
- ・療育活動においては、活動の基本となる個別の機能訓練に重点を置き、ご家族からの聞き取りや要望を踏まえて、今年度より配置した作業療法士および嘱託理学療法士と連携を図りながら毎日取り組むことができた。感覚遊び、音楽活動、創作活動、エアトランポリン等の活動をこれまでの経験に基づきながら工夫して実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策においては、活動運営の形態自体はコロナ禍以前の状態に戻し実施、ただし必要以上に密になることを避ける、定期的に換気を行うなど、一定の対策は継続しつつ実施した。

②リハビリテーションへの取り組み

- ・本年度より作業療法士1名を配置し、利用者全員についてのリハビリテーションに係るアセスメント票作成に取り組んだ。アセスメントに基づき個別の施療に取り組んだ。施療に当たっては嘱託理学療法士と連携し従来のリハ内容を踏襲しつつ新たな取り組み内容も加味して試みた。
- ・本年度も言語聴覚士により、嚥下器官機能評価、口唇部等のマッサージ、構音検査等を実施し、嚥下機能および発語機能の維持改善に向けて取り組んだ。また利用者の耳鼻咽喉科受診に同行し、VE 検査結果に基づく食事形態および食事摂取時の姿勢について病院 ST との確認を行った。

※別紙 言語訓練事業報告

③ミュージックケアについて

- ・毎月2回（各班1回）療法士の来所によりミュージックケアを実施した。継続的に取り組む中で、療法士による音楽とのふれあいにおいて、個々への良い刺

激となり、普段とは異なる反応や感情表出を見せて下さる様子が窺えた。

※別紙 ミュージックケア 事業報告

③快適な入浴

- ・希望される利用者への入浴を週2回実施した。23名の利用者が希望され入浴していただいた。適切に福祉用具を使用し、安心して快適な入浴を提供することができた。

④外出活動の再開

- ・コロナ禍で控えていた外出活動を再開した。プチ外出と称する半日外出と1日外出を組み合わせて、年間を通じて外出する機会を確保した。外出は社会との接点のひとつでもあり、また利用者における社会参加活動としてその意義は大きい。外出活動の状況は、以下の通り

*外出活動の状況

実施時期	外出先および内容	参加者数
4月	いちご狩り（湖南省市）	3回 15名
5月	水口曳山祭見学（水口町内）	9名
	アグリパーク竜王（竜王町）	3回 10名
8月	アレックスシネマ映画鑑賞（水口町内）	6回 13名
10月	買い物外出（水口町内）	4回 4名
	コスモス畑へドライブ（土山町内）	6回 12名
11月	京都水族館（京都市）	3名
	じゅらくの里（湖南省市）	3名
12月	サンタ列車に乗ろう（信楽町）	3回 14名
1月	アレックスシネマ映画鑑賞（水口町内）	3回 6名
	買い物外出（水口町内）	4回 7名
3月	ブルーメの丘（日野町）	2名
	古民家カフェでミニ音楽ライブ鑑賞（水口町内）	3名
	甲南中学校吹奏楽部発表鑑賞（水口町内）	2名
	じらくの里で粘土体験（湖南省市）	3名
	みなくちこどもの森散策	2名
		合計 40回 108名

⑤食事サービス

- ・ミールサービス谷口（長浜市）より保温容器での配達。汁物と米飯は施設内で調理師による調理での食事を提供している。
- ・施設内のキッチンでの調理師による調理は、日々に工夫し多様なメニュー、また暖かい汁物と米飯を提供することができた。
- ・食事介助については、利用者一人ひとりの個性や食事ペースに配慮し、個別対

応での食事としている。一人ひとりの状態をしっかりと把握でき、利用者も安心して食事することができた。

- ・ミールサービス谷口による食事の中心温度の測定、食品の一部保存、職員による検食を実施し、食の安全性確保に努めた。

⑥年間行事

- ・季節感を感じられ、利用者が楽しめる行事を計画、実施した。

8月25日 夏祭り

10月26日 ハロウィンパーティ(2班)

31日 ハロウィンパーティ(1班)

12月21日 クリスマス会(2班)

25日 クリスマス会(1班)

26日 クリスマスとんとん山コンサート(外部より演奏者来所)

1月10日 新年祝賀会

31日 成人を祝う会

3名の利用者の成人のお祝いを行なった。

2月 1日 節分豆まき(2班)

2日 節分豆まき(1班)

月毎 誕生日お祝い食事会

- ・今年度は夏祭り行事を2部構成とし、夕刻17:30より第2部を実施、外部より和太鼓の演奏に来ていただき、併せて夏祭りらしく屋台の出店、花火大会を実施した。保護者への参加も案内し初めての夜の過ごしを楽しんでいただいた。

(4) 会議および研修の計画的な実施

①会議およびミーティングの実施

- ・職員会議を定期的実施し、職員相互の研鑽、新たな取り組みへの立案、課題解決への協議などについて職員相互の意見を交わす機会とした。また、日々のミーティングを充実させるため、職員朝礼(10:00)とミーティング(17:00)を実施した。日々の打ち合わせと今取り組むべき課題について話し合い、職員相互のチームワークを固める機会とした。

②職員研修

- ・施設内研修

今年度は、全員参加の集合型研修を2回、研修動画の視聴や複数日に分散して行う小規模な研修(ふち研修)を6回開催した。ほぼ毎月何らかの研修を行うことで職員のスキルアップや新たな知識を得る機会として、仕事へのモチベーションアップにも繋がったと考える。なお集合型研修の実施に際しては、午前中のみの開所とし午後に開催した。研修内容は以下の通り。

【施設内研修】

研修日	研修内容
-----	------

6/28	集合型研修「リフター体験・トロミ食体験を含む体感型研修」
7/14～7/31	動画視聴「スリングシートとスライディングボードの正しい使い方」
8/28～9/7	言語聴覚士による「食事介助の基本と嚥下の仕組みについて」
9/27	集合型研修「日中支援活動の大切さを学ぶ」 (講師：びわこ学園活動担当 水津氏)
10/1～ 10/31	「記録の書き方と振り返り 何を残していくのか」
11/21～ 12/8	「ミュージックケアについての知識を深め、支援者としての関わり方を学ぶ」 (講師：ミュージックケアワーカー 宇野氏)
12/1～ 12/31	「ヒヤリハットと事故 その違いについて考える インシデントとアクシデント」
2/1～2/28	「障害者虐待防止法と身体拘束について」

・外部研修

施設内での研修と併せ、外部で開催された研修や案内のあったオンライン研修にも積極的に参加した。

研修日	研修名	参加者数
6/27	びわこ学園職員研修 新任職員第3次研修 (WEB研修)	1名 (CW)
7/20	甲賀地域障害福祉人材育成のための研修会 (甲賀市)	2名 (CW・OT)
8/1～	滋賀県重症心身障害児および医療的ケア児および医療的ケア児者支援者の為の研修会 (WEB研修)	2名 (NR・OT)
8/31	びわこ学園職員研修 摂食機能と援助の基本	1名 (ST)
9/26	びわこ学園職員研修 新任職員第4次研修 (WEB研修)	1名 (CW)
10/14	滋賀県小児在宅医療体制整備事業 座学研修会 (WEB研修)	2名 (NR)
10/31	びわこ学園職員研修 重症心身障害者の医療 (WEB研修)	1名 (CW)
11/15	滋賀県小児在宅医療体制整備事業 実技研修会 (草津市)	2名 (NR)
2/1・3/7	障害分野における「対人支援のための記録入門研修」	1名 (CW)

(5) 地域交流、地域支援活動

①学生実習の受入れ

- ・甲賀看護専門学校より10日間、27名の学生を受け入れた(日毎に学生交代)。かがやき及び放課後等デイサービスきらっとでの医療的ケア児者の対応を中心として、各事業所の看護師が学生の指導に当たった。

②小中学校への福祉教育活動

- ・土山中学生職場体験学習の受入れ(3名3日間)
土山中学校より3名の生徒を受け入れ、車いす体験やリフター体験、利用者と一緒に療育活動に参加していただく等の体験学習を実施した。

③就業体験実習の受け入れ(1名1日)

- ・三雲養護学校の高等部2年生（1名）の受け入れを行ない、卒業後の進路として検討する機会としていただいた。なおもう1名の生徒（高等部2年生）の受け入れを計画していたが体調不良により中止となった。

④ボランティアの受入れ

- ・6月に職場体験学習でかがやきに来られた土山中学生3名へ、夏休み期間中の体験会（かがやき夏の体験会）を案内し、2名の生徒が4日間に渡りかがやきでボランティア活動に取り組みました。

（6）事故防止対策の充実

今年度はヒヤリハットが14件、事故報告が9件であった。職員ミーティングで確認し、個々の要因分析を行い、再発防止に努めた。また、ヒヤリハット報告を多く出すことで大きな事故を防止できる効果が考えられるので今後も継続していきたい。

◎事故報告（9件）

- ・創作活動中に使用していた絵具と糊を混合させた液体を、職員が目を離した間に液体をかき混ぜるスプーンを口に入れてしまわれた。体調不良等の発症はなかった。
- ・自宅送迎時に呼吸器の電源の入れ忘れがあった。送迎終了後に家族からの連絡で初めて知ることとなった。帰宅後しばらくはSP02が低下し不安定な状態であったが、その後回復された。
- ・送迎時利用者宅の駐車場に送迎車を駐車しドアを開けて荷物を載せている時に風でドアがさらに開き隣に駐車されていた自家用車に接触、傷を付けてしまった。保険対応にて修理をさせていただく。
- ・食事介助における喉詰め事故。食事介助にて口に運ぶペースが速く、またパサつきがあり嚥下しにくい食物であったことから、飲み込み切れず喉詰めに起こされた。発生後吸引施行し様子観察にて回復される。
- ・送迎後施設に戻る途中での駐車車両への追突事故。かがやきへ戻る道中にて運転していた職員が体調不良から意識を喪失し（本人からの情報）車道を外れ道沿いの工場に駐車してあった車両に追突する事故が発生した。運転職員にけがなし、車両は廃車となる。当該職員には精密検査を受けてもらうが特に異常なしであった。
- ・原因不明の内出血斑の発生。昼食時に脛上部に赤みと腫れがあるのを発見するが、いつどのようにしてできたのか原因を確認できず。観察不足あり。
- ・活動中に使用していた粘土を口に入れられるという異食の事故。活動開始後しばらくは注意を払い観察し特に口に持っていく行為が見られなかったが少し傍を離れた間に異食された。すぐに吐き出され体調の不良等は発生しなかった。
- ・歩行訓練中に屋外を歩行中、突然膝折れしてアスファルト地面に両膝を着かれた際に膝を表皮剥離、出血された。歩行訓練時に普段から見られる行為であっ

たことから安全を確保する配慮不足による。

- ・排泄介助時にトイレ内のおむつ交換台に二人介助にて移乗した後に、介助者2名が共に利用者に背を向けた瞬間に床に転落された。頭頂部に出血と腫脹みられ、頭内部にシャントが留置されていることから母親に連絡し緊急受診を行う。CT検査の結果シャントへの影響はなしであった。頭頂部の処置を受け病院を退出、家族に様子観察を依頼する。その後特変なかった。

(7) 苦情の受付

本年度、2件の苦情を受け付けた。

◎苦情受付

申し出の主旨	申し出の対応	見解
①かがやきより帰宅後、オムツが腰から尾てい骨付近にかけて破れている状態で帰ってきたと家族より連絡あり。もし排尿や排便があれば漏れてしまい大変なことになっていた、今後このような事がないように注意して欲しいとの申し出。	ご家族にお詫びし、職員間で適切な対応を徹底することを伝える。	観察の不足による。どのような経緯でオムツが破れたかは特定できなかったが、車いす移乗後に姿勢を直すために上体を引き上げた時に破れた可能性もあることから、身辺の介助介護においては十分な観察を行うことを徹底した。
②女性利用者の家族より、男性職員が大腿部の発赤について確認したことに対し、その確認方法に疑問を持たれ連絡ノートに記載してこられた。電話にて改めて確認する。異性の職員が一人で確認するのではなく同性職員も一緒に確認してほしいこと、確かな確認方法をとることについて申し出あり。又以前に話し合いの場で専門家（療法士）だからと言ってこちら（家族）の意見を聴いてもらえなかったことについても話される。	連絡ノートに記載があった日の送迎時に家族より記載いただいた内容について確認し、改めて施設長より連絡させていただくことを伝える。翌日施設長より家族に連絡し、その後自宅を訪問して家族の思いや疑念について話を伺い、お詫びする。	家族との関係性の構築が未熟であったことによる。家族との関係性構築においてはまずは家族の意見や思いを傾聴し、併せて利用者本人の成育歴や思い（どのように思われているのか）にも配慮して行うことについて認識を共有する。また事業所として異性介助の際の留意事項について周知する。

3. 次年度に向けた課題

- * 医療的ケアが必要な利用者への看護師を主とする受入れ体制の盤石化
 - ・ 医療的なケアを必要とされる利用者が年々増加している中で、看護師を中心とした受入れ体制の確保と維持が重要となっている。新規の医療的ケア者の受入れはもとより、これまでは医療的ケアが不要であった方が呼吸機能の低下などの状態変化により医療的ケアが必要になられるなど、今後も医療を必要とされる方の増加が予測される。施設内での対応や送迎時の添乗も含めて、看護師の配置状況が適切であるかどうかを都度を確認しながら、生活支援員との連携の中で安全の確保に努めていく必要がある。“医療が必要であっても仲間と過ごせる場”を提供していくことが、かがやきの果たすべき役割であることを認識し、それに備え、応えていきたい。
- * 療育活動のさらなる専門性の発揮
 - ・ 重症心身障害者通園事業開始時より様々に取り組み、そして積み重ねてきた療育の活動について、単なる活動（レクリエーション）にとどまらず、さらに専門性を高めていくことが求められる。これまでも様々な工夫と配慮の中で利用者の喜びを導く取り組みを進めてきているが、さらに一つひとつの活動プログラムを介して、ひとり一人の興味や可能性を引き出し、評価し、分析し、次のステップへつなげていくプロセスを明確にしていきたい。そのためにも専門的な視点で実践に当たる力を職員全体が身に着けていく必要がある。
- * 事故ゼロに向けた安心、安全の拡充
 - ・ 職員個々の気づきが事故の防止につながることを確認し、事故が起きやすい場面を想定して、ヒヤリハットや危険予知に対する研修等も実施してきているが、なお毎年数件の事故が発生している状況にあり、さらなる事故防止に向けた取り組みが求められる。発生した事故を分析し具体的な対策について共有化を図り、環境の改善と事故の再発防止に努める必要がある。“事故ゼロ”を理想ではなく現実のもとしていきたい。
- * 地域資源としてのかがやき機能の発揮
 - ・ かがやきを地域資源の一つとして位置づけ、新規利用希望者の受け入れなど、圏域の課題である重心者の日中活動の場の保障に少しでも対応できるよう努めていくこと、医療的なケアが必要な方も利用できる活動の場であること、を再認識して、かがやきの地域で果たすべき役割を確実に担っていくことを意識して運営に取り組んでいく必要がある。さらにはかがやきの機能（持っているノウハウ）を広く地域に紹介、発信していくことも試みていきたい。

【別紙添付報告書】

看護師事業報告／外出活動事業報告／ミュージックケア事業報告／言語療法事業報告
個別ケースに係る事業報告

以上